

平成25年度(2013年度)

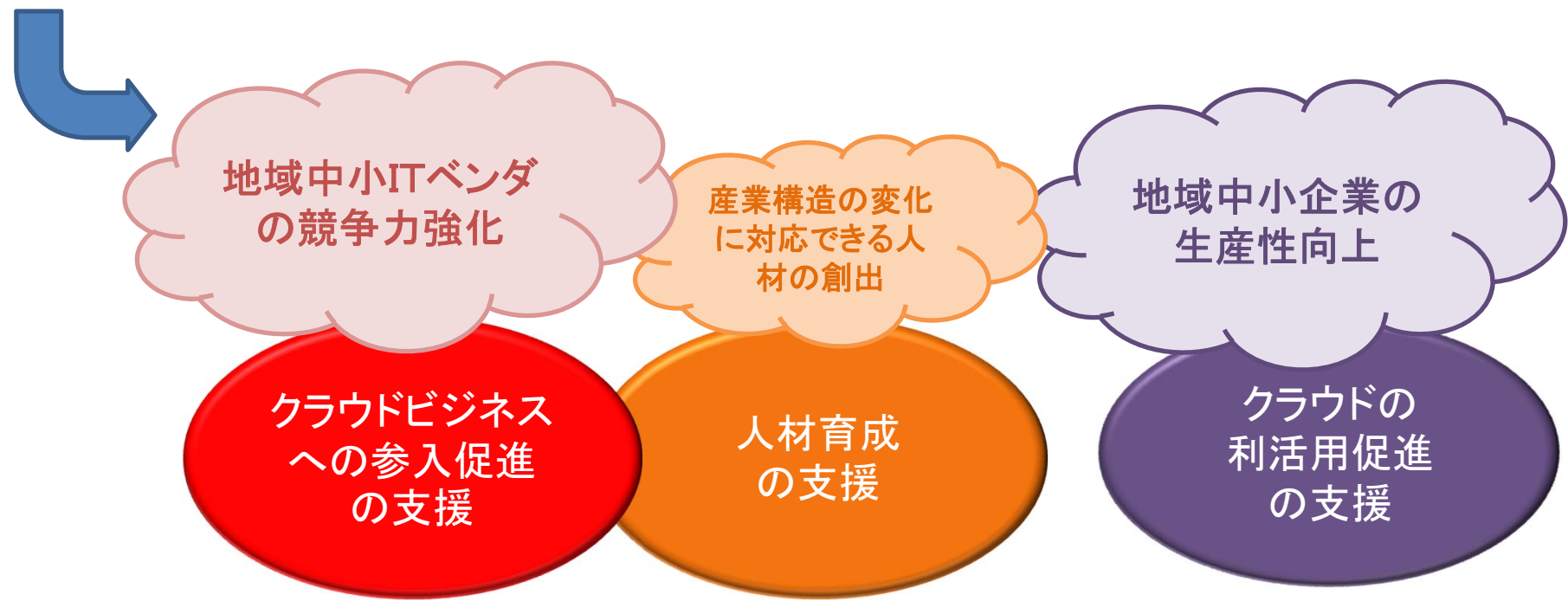
ちゅうごく地域クラウドビジネス推進ネットワーク
(CCBNET.)
平成25年度活動報告

平成26年4月
中国経済産業局電子・情報産業担当

1. 平成23年度の取組み

ちゅうごく地域クラウドビジネス推進ネットワーク（CCBNET.）の立ち上げ

中国地域においてクラウドコンピューティングの利活用促進を軸に、中小企業、中小ITベンダ、中小企業支援機関等による協業体制の構築を図り、人材育成及びビジネスモデルの創出、ビジネスマッチング、モデル実証等を通じて、地域中小企業の生産性向上及び中小ITベンダの競争力強化を実現するとともに、情報サービス産業の構造的課題に対応することを目指す。



地域中小ITベンダと地域中小企業との交流促進

ちゅうごく地域クラウドビジネス推進ネットワーク(CCBNET.)として実施

交流会・意見交換会

クラウドビジネスストーリーの開催(4回/延べ288名参加)
→クラウド最新動向の紹介、クラウド導入事例の研究等

クラウドビジネス研究会

他社との共創によるクラウドビジネスの展開のため研究会テーマを公募
→ビジネスモデルの構築に向け、コアとなる企業を中心として企業間連携による研究会を発足し、ビジネスモデルの実現性を6件検討

ビジネスマッチング

ひろしまIT総合展2011への出展(12社・団体で共同出展)
→ビジネスモデル研究会等で検討したクラウドビジネスの実現に向けたユーザー企業とのマッチングを目指してプレゼンテーションを実施

ビジネスモデル実証

クラウドビジネス研究会の中から4件についてシステムの試作
→ビジネスモデルのユーザー等による評価、検証

研修事業

経済産業省作成テキストに基づき、中国管内4カ所で開催(延べ111名参加) **人材の育成**
→クラウドサービスを提供するために必要な技術力や企画力等の供給力向上を図り、ビジネスモデルの転換を促すため研修の実施

IT利活用ニーズ調査

ネットワーク参画企業及びユーザー企業に対して実施(延べ110社)
→地域中小企業における経営課題やIT経営実践の実態、IT化ニーズの発掘等に必要な調査を実施

クラウド導入事例集

クラウドの基本や地域内外のクラウド活用事例をまとめ、CCBNET.のホームページ上で公開
→クラウドへの興味や意識の喚起のために作成

(再掲)ビジネスマッチング

クラウドビジネスへの参入促進

中小ITベンダの競争力強化

産業構造の変化に対応できる人材の創出

クラウドの利活用促進

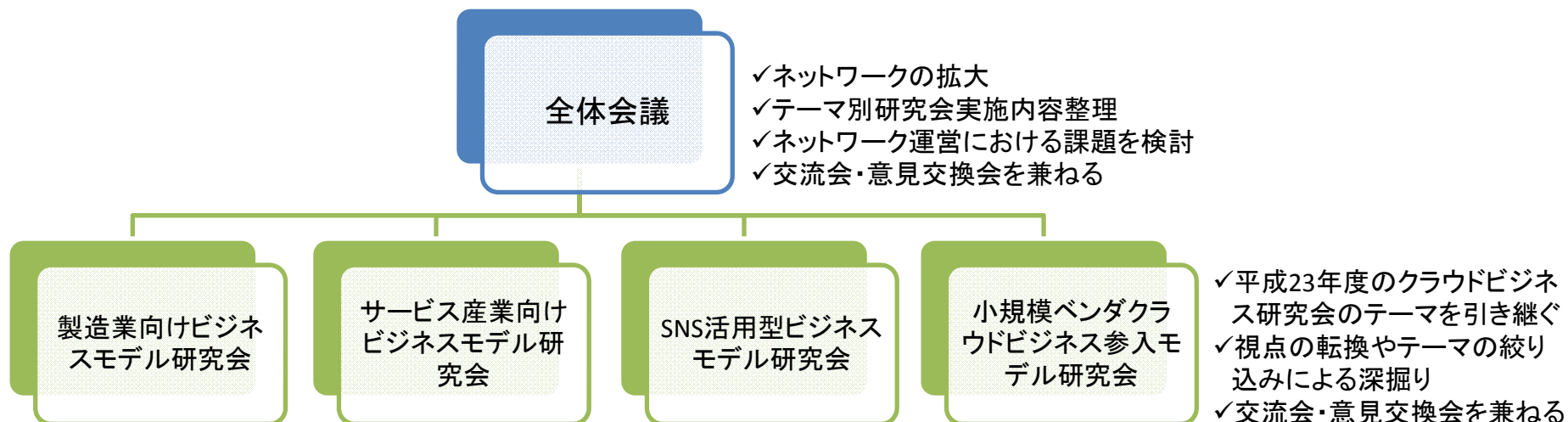
地域中小企業の生産性向上

2. 平成24年度の取組み

平成24年度 クラウド利活用促進のための自立的なネットワーク形成と 新たなビジネスモデルの構築に関する調査等～その1～

ちゅうごく地域クラウドビジネス推進ネットワーク(CCBNET.)として実施

平成23年度実施事業の活動結果を踏まえ、CCBNET.としてのネットワークの拡大を図りつつ、クラウドビジネス研究会及び交流会・意見交換会について、視点の転換やテーマの絞り込みを勘案しながら深掘りを行う(事務局:株式会社ウエイブ)。



CCBNET. 全体会議(8月、12月開催)

第1回 会議(平成24年8月3日開催) 参加者:70名

- 平成24年度事業の会員への周知
- クラウドビジネスの現状の整理
- テーマ別研究会のデモンストレーション
- 交流会・意見交換会

各研究会の開催

第2回 会議(平成24年12月7日開催) 参加者:33名

- 研究会実施内容の整理
- ネットワーク運営における課題の整理
- 最適なクラウドビジネスモデルの検討
- 交流会・意見交換会

平成24年度 クラウド利活用促進のための自立的なネットワーク形成と 新たなビジネスモデルの構築に関する調査等～その2～

テーマ別クラウドビジネスモデル研究会

平成23年度に実施した6件のクラウドビジネス研究会の中で、視点の転換やテーマの絞り込みを勘案しながら更なる深掘りが必要な4つのテーマについて各々3回ずつ研究会を開催。

平成23年度

食品製造業向けクラウドサービス研究会

- 成果: 試作品の作成
- 課題: 既存パッケージ商品のクラウド化によるビジネス性の難しさ

サービス産業の生産性向上支援ビジネス研究会

- 成果: 試作品の作成
- 課題: ユーザーニーズの所在の分かり難さ

地域の観光資源の発信による観光誘導ビジネス研究会

- 成果: 地域を巻き込む活動
- 課題: 地域プレイヤーの意識醸成及びベンダにとってのビジネス性の難しさ

小規模ベンダの共創によるクラウドビジネス参入モデル研究会

- 成果: 分業体制構築の必要性が確認された
- 課題: パートナーの見つけ方や組み方

平成24年度

製造業向けビジネスモデル研究会

11/28,12/3
参加者: 延べ43名

- テーマ: 組込みソフトウェア産業におけるクラウドコンピューティングの活用
- 内容: ニッチ領域における開発環境の現状理解から、クラウドサービスの展開可能性について考察

サービス産業向けビジネスモデル研究会

9/11,28,10/10
参加者: 延べ70名

- テーマ: サービスイノベーションの現場におけるソリューションのベストミックス
- 内容: サービス産業の生産性向上とクラウドを含むIT利活用の関係性の整理によるユーザー理解の促進

SNS活用型ビジネスモデル研究会

9/27,10/17,11/8,29
参加者: 延べ67名

- テーマ: SNSを活用した認知度アップ
- 内容: ベンダ自らがSNSを活用して自社商品のマーケティングや自社の知名度アップを図ることによりノウハウを蓄積

小規模ベンダ向けクラウドビジネス参入モデル研究会

9/27,10/17,11/8,29
参加者: 延べ67名

- テーマ: 小回りを活かしたサービス開発とパートナーの創造
- 内容: 他社商品とのコラボレーションによる自社商品の充実や、分業のための連携に際して必要な備えを検証

今こそ「作るだけ」のシステム屋から脱却のとき！
～ユーザとベンダはお互いを高め合えるパートナーを目指そう！～

参加者
49名

日時：平成26年2月25日（火）13:00～
場所：サンラポーむらくも（松江市殿町369）

第一部 事例報告
「信頼と共創が道を拓く！
一緒に夢を追いかけられるユーザ企業との出会い方」

ユーザ企業：株式会社喜久屋（クリーニング業）
ベンダ企業：株式会社ネクストベリー

- ✓ 経営理念「三方良し」の具現化のため、ITはツールとして重要
- ✓ ITに人間でなくてもできることをやらせてもらうことにより、人間が人間らしいサービスを提供する時間を増やせる
- ✓ どちらかが楽しんで儲けようとする関係は続かない
- ✓ 「プラス志向」は有効

<参加者の声>

- ◆ 経営とITの関係が分かりやすく理解できた
- ◆ 顧客のビジョンを共有することで本当に必要なサービスを供給できる
- ◆ ネット接続環境やデータリカバリなどにも言及され、いいことばかりではなく警告もあって良かった
- ◆ サービス工学の進歩が少々わかった など

- 平成24年度のテーマ別研究会から、サービス産業向けビジネスモデル研究会及び小規模ベンダ向けクラウドビジネス参入モデル研究会を引継ぎ実施
- 更に平成23年度からの活動において、一貫した課題として挙げられている共創、協働に対して、一つの解としてアジャイル開発手法によるユーザとベンダの共創、協働の事例を提示

第二部 基調講演
「イノベーションの現場を目撃せよ！
ソリューションビジネス最前線」

講演者：株式会社シンカ 江尻 高宏氏

- ✓ クラウドファーストの事例が増えている
- ✓ クラウドビジネスはスモールスタートで、徐々に育ていくビジネスモデルが合っている
- ✓ クラウドはセキュリティには注意が必要だが、正しく使えば大きな成果が出る
- ✓ クラウド活用では、ユーザとベンダがシステム環境を共有できるためニーズをすぐ反映できる

全体コーディネーター／
ディスカッションファシリテーター
近畿大学工学部情報学科
谷崎 隆士教授

第三部 ディスカッション
「“良い”パートナーに出会いたい！
顧客目線ってそもそも何だ？」

- 話題提供：ビッグデータがサービス産業の現場を変える
産総研サービス工学研究センター 蔵田 武志氏
- ✓ 自動化の時代でも煩雑な作業は人間依存度が高く、人の動きのデータもビッグデータとしてビジネスのタネになり得る

地域事例発表：アジャイル開発がもたらしたもの
ユーザ企業：株式会社めのや（製造小売業）
ベンダ企業：株式会社プロビズモ
ディスカッション

- ✓ アジャイル開発は共創という点からは有意義だが、適用範囲の見極めは必要
- ✓ ユーザ側にもある程度のITリテラシーが求められる